

街を行く

第106回 リトル東京 Little Tokyo

先人の精神を後世に残せないか

ロサンゼルススのダウンタウン「リトルトーキョー」を訪ねました。ここはその昔、アメリカ大陸に新天地を求めて移住してきた日本人が、生活の苦勞や日本への郷愁に対する心の支えとしてつくり上げた街です。

小生が初めて訪ねたのは約40年前のこと。まさにその名の通り日系人コミュニティであり、日米の文化交流の場として、お祭りやお盆など日本の伝統行事も催されていました。日系移民たちには、彼らのルーツである国や文化を忘れまいとの思いがあったのでしょうか。ですが、年月を経て世代が4世・5世と移り変わった現在、日系人はすっかりアメリカ文化に溶け込んでいます。日本への郷愁が薄れるのも仕方がないことです。「日本村プラザ」という街の中心部にある商店街を歩くと、もはや日系人たちの憩いの場ではないことがわかります。誰もが気軽に日本食を楽しめるスポットといった風情です。訪れる人々を眺めてみても大半は中国や韓国、その他アジア諸国の方たちでした。

現在、ロサンゼルスだけでなく全米レベルで在留日本人は減少しています。この街も例外ではなく日本人はほとんど見かけませんでした。日本人がアメリカに来てまで日本人街へ来る必要はないかもしれませんが、なんだか少し寂しいですね。

プラザ内には飲食店が多く、どの店も人気メニューは「お寿司」と「ラーメン」でした。日本人にとっては方向性の異なる料理が一つの厨房で作られていると思うと少し食が細ります。でも、家族連れれの観光客にとっては人気メニュー

が一度に味わえるから、一石二鳥と喜ばれるでしょうね。

行列の出来る店も発見しました。皆さん何だと思われませんか？

それは「回転寿司」です。店内をみると、お客さんが嬉しそうにお皿を高く積み重ねていました。こうした光景は日本も海外も同じなのですね。そのほか広島風お好み焼屋、日本風のベーカリー（パン屋）、かき氷屋やお土産物屋もありました。小生が40年前に見かけた店が今も残っているのを発見、郷愁に浸りしばらく店の前から立ち去れませんでした。海外を訪れ

ると必ずこんな気持ちにさせてくれる場所があります。言い換えると、日本人が、いかにその国に根を下ろしてきたのかを感じる場所でもあるのです。われわれの祖先（そう昔ではない時代）の開拓精神、チャレンジャーシップは凄いものです。われわれはいつから「攻め」を忘れ、内輪ばかりをみて外を知ろうとしなくなったのか。それでは世界で競争することは出来ません。

小生が「世界中で住みよい国は？」と聞かれたら、間違いなく「日本です」と答えるでしょう。しかしそれは今までの話であって、この先はどうなるか。皆さんも本当はお分かりのはずです。この話題は本連載の幅を超えてしまいますね。小生の会社（JAA）で発行する機



リトルトーキョー内にある商店街「日本村プラザ」日系人コミュニティから観光スポットへ変貌を遂げている

関誌（JAA通信）で話そうと思います。いつものようにこの街では丼物をいただきました。海外でいただく日本食、感謝のほか何物でもありません。先達の方々、ありがとうございます。

南 一 弘



1982年大学卒業後、三井不動産販売に入社。ローンスター・ジャパン・アクイジションズを経て、2001年エートス・ジャパン・エルエルシーを設立。同代表に就任。2005年4月MID都市開発（旧松下興産）の代表取締役役に就任。2006年ジャパン・アセット・アドバイザーズを設立。同代表取締役役に就任。